

特別支援教育研修会

特別支援学級の授業づくりについて

西部教育事務所

1. はじめに
2. 知的障害特別支援学級
3. 自閉症・情緒障害特別支援学級

1. はじめに

ここからはじめてみよう、特別支援学級



まずはここから

一人一人に合った学びを考える

特別支援教育では、障害による特性を理解し、その特性に応じた学習方法について知識などが必要とされますが、それだけで成り立つものではありません。目の前の子供一人一人に合った学習活動を考えていくことが何より大切で、これは、これまで先生方が通常の学級で、それぞれ子供の学習の進め方やつまずきなどに合わせた指導や支援をしてきた経験が生きるものです。このような意味で、「特別支援教育」は「特別な教育」ではないのです。

特別支援学級の担任に求められる最も大切なことは、一人一人の子供がどのようなことに興味関心があるか、得意なことや苦手なことは何かなどを学校生活の中で把握することです。

特別支援学級の担任になったら、まずは、目の前の子供がどのようなことに関心があり、どういうことを苦手に行っているのか？

何が上手いかわからないのか？

どうすれば上手いくなるのか？

実際の活動の中でよく見て捉えるようにしましょう。そして、子供一人一人に合った学びの方法がないか、いろいろと取り組んでみましょう。

特別支援学級の担任として少しずつ知っておきたいこと

まずは、それぞれの子供に合った学びを考えるために、障害の特性について理解することが大切になります。障害の特性により、学習場面で様々な「つまずき」が生じる子供たちがいます。そのつまずきや困難さに気付くには、先生ご自身が子供をよく見ていくのに加え、専門的知識が必要になります。

2. 知的障害特別支援学級

知的障害とは？

知的障害とは「知的機能の発達に明らかな遅れ」と「適応行動の困難性を伴う状態」が「発達期」に起こる障害のことをいいます。

「知的機能の発達に明らかな遅れ」とは、認知発達や言語発達などの知的機能に関わる側面において、全般的に同年齢の子どもの平均的水準と比較して有意に遅れがあることを指します。また、「適応行動の困難性を伴う状態」とは、他人とのコミュニケーション、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などの社会適応に関する能力について、同年齢の者に標準的に要求される水準に至っていない状態のことを指します。

知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本

- (1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第1章第3節の3の(1)のク及び(3)のアの(オ)に示すとおり、児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を考慮して**教育的ニーズを的確に捉え、育成を目指す資質・能力を明確**にし、指導目標を設定するとともに、指導内容のより一層の具体化を図る。
- (2) 望ましい**社会参加**を目指し、日常生活や社会生活に生きて働く知識及び技能、習慣や学びに向かう力が身に付くよう指導する。
- (3) **職業教育**を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能、態度及び人間性等が育つよう指導する。その際に、多様な進路や将来の生活について関わりのある指導内容を組織する。
- (4) **生活の課題**に沿った多様な生活経験を通して、**日々の生活の質が高まるよう指導**するとともに、よりよく生活を工夫していこうとする**意欲**が育つよう指導する。

- (5) 自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する。
- (6) 児童生徒が、自ら見通しをもって主体的に行動できるよう、日課や学習環境などを分かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活が送れるようにする。
- (7) 生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際的な状況下で指導するとともに、できる限り児童生徒の成功経験を豊富にする。
- (8) 児童生徒の興味や関心、得意な面に着目し、教材・教具、補助用具やジグ等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- (9) 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるよう工夫し、その活動を遂行できるようにするとともに、活動後には充実感や達成感、自己肯定感が得られるように指導する。
- (10) 児童生徒一人一人の発達の側面に着目し、意欲や意思、情緒の不安定さなどの課題に応じるとともに、児童生徒の生活年齢に即した指導を徹底する。

知的障害のある子どもの学習上の特性

- * 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活場面に生かすことが難しい
 - **実際の生活場面**に即しながら、**繰り返し**学習する
 - スモールステップの**継続的・段階的な指導**が重要
- * 成功体験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い
 - がんばっているところやできたところを細やかに**認め、称賛**する
 - 抽象的な内容の指導よりも、**実際的な生活場面**の中で**具体的に思考や判断、表現**ができるようにする指導が効果的

教育内容・方法

できるだけ実生活につながる技術や態度を身に付けられるようにするとともに、社会生活上の規範やルールの理解を促すよう配慮する

全般的に学習内容の習得が困難な場合があることから、理解の状況に応じた学習内容の変更・調整を行う（焦点化を図ること、基礎的・基本的な学習内容を重視すること、生活上必要な言葉等の意味を確実に理解できるようにすること等）

知的発達の遅れに応じた分かりやすい指示や教材・教具を提供する（文字の拡大や読み仮名の付加、話し方の工夫、文の長さの調整、具体的な用語の使用、動作化や視覚化の活用、数量等の理解を促すための絵カードや文字カード、数え棒、パソコンの活用等）

実際的な生活に役立つ技術や態度の習得が困難であることから、調理実習や宿泊学習等の具体的な活動場面において、家庭においても生かすことのできる力が向上するように指導するとともに、学習活動が円滑に進むように、図や写真を活用した日課表や活動予定表等を活用し、自主的に判断し見通しをもって活動できるようにする。

友人関係を十分には形成できないことや、年齢が高まるにつれて友人関係の維持が困難になることもあることから、学級集団の一員として所属意識がもてるように学級全体で取り組む活動を工夫するとともに、自尊感情や自己肯定感、ストレス等の状態を踏まえた適切な対応を図る。

教育課程

小・中学校の特別支援学級に在籍する障害のある子どもの場合、その教育課程については、（ア）当該学年の内容、（イ）下学年の内容、（ウ）特別支援学校（知的障害）の学習指導要領で示されている内容の3種類から、いずれかを選択し（1つの学級において複数の教育課程を届け出る場合もある）、児童生徒の障害の程度や学級の実態に応じた教育課程を編成することになります。

知的障害のある子どもの指導に当たっては、知的障害の特性に配慮した指導の組み立てが必要です。学んだことを定着させ、「真に生活で使える知識・技能」とするためには、抽象度を下げ、できるだけ具体的に生活に根ざした活動の中で、繰り返し学ぶことが大切です。

自立活動を取り入れて編成する教育課程

各教科	道徳	特別活動	外国語活動	自立活動	総合的な学習の時間
-----	----	------	-------	------	-----------

各教科の目標と内容を、小学校学習指導要領の下学年の教科の目標と内容に替え、かつ、自立活動を取り入れて編成する教育課程

各教科	道徳	特別活動	外国語活動	自立活動	総合的な学習の時間
-----	----	------	-------	------	-----------

各教科を、知的障害のある児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標と内容に替えて編成する教育課程

各教科	道徳	特別活動	外国語活動	自立活動	総合的な学習の時間
-----	----	------	-------	------	-----------

各教科を、知的障害のある児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標と内容に替え、かつ、各教科等を合わせた指導を取り入れて編成する教育課程

各教科	道徳	特別活動	外国語活動	自立活動	各教科等を合わせた指導 (特別支援学校 (知的障害)の 各教科等)	総合的な学習の時間
-----	----	------	-------	------	--	-----------

「すけっと(Sukett)」 P50
国立特別支援教育研究所

知的障害特別支援学級の授業づくりについて、教師がすること

児童生徒がこれからの生活の中で身に付けておいて損のないこと、そして大切なことを厳選

学習指導要領を指針としながら、「どんな方法で」「どんな教材を使って」と考えていく。

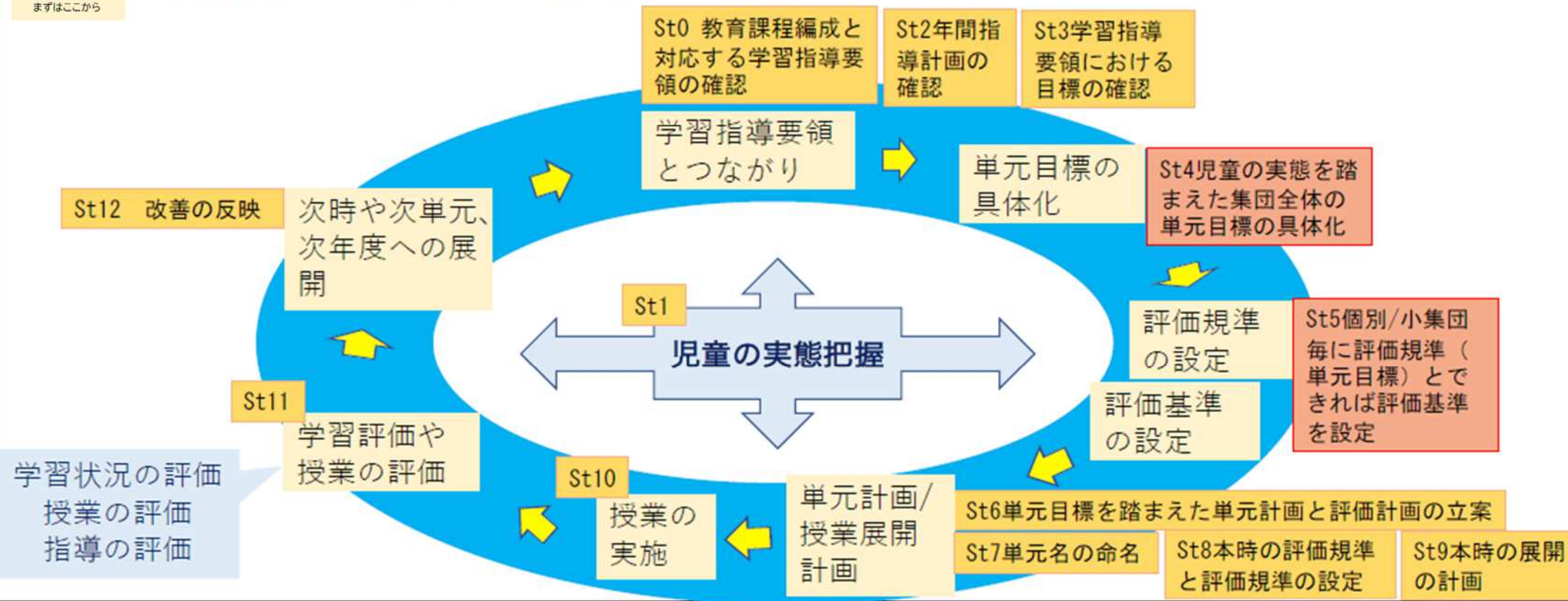
※特別支援学級の教育課程の編成については、
西部教育事務所HP お役立ちアイテム 特別支援教育研修会資料
【研修資料4・5】(参照) 今年度も3月にオンライン研修の予定です。

- * 自分で決める（自己決定）のチャンスをできるだけ作るようにする。
- * 集団として全員が一緒のことをするのではなく、個々の目標を同じ場所で学べる方法を考える。
- * 目標達成が難しい児童生徒がいる場合
やめてしまう前に……
どうしたらできるか。
その中で児童生徒の目標はないかを考え、探す。



まずはここから

授業づくりの流れとポイント



まずは 子供の実態を把握しましょう！

- 1 観察法
- 2 質問紙法
- 3 面接法



領域ごとの実態把握の観点(国語)

言葉の特徴や使い方	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な名詞、動詞、形容詞と、それが示すものとの対応をどの程度わかっているか(語彙)。 ● 他人の話した内容が何を表しているのか、どの程度わかっているか。 ● 1文字のひらがな、カタカナ、漢字をどの程度読めるか。 ● ひらがな、カタカナ、漢字それぞれが含まれる単語をどの程度読めるか。
情報の扱い方	<ul style="list-style-type: none"> ● 話や文章の中に含まれている複数の情報の関係性を、どの程度理解できるか。
我が国の言語文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 昔話や言葉遊びをどの程度知っているか、それを楽しめるか。 ● 読み聞かせにどの程度の注意を向け、楽しむことができるか。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 話しかけにどの程度注目して、内容を理解し、答えることができるか。 ● どの程度、指示を理解して行動できるか。 ● 体験したことや自分の気持ちをどの程度表現できるか。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ● ひらがな、カタカナ、漢字それぞれのなぞり書き、写し書き、見本なしでの書字がどの程度できるか。 ● 書くことで自分の体験などをどの程度表現できるか。 ● 文字をどの程度なめらかに書けるか。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 読んだ内容が実際にどのようなことを表しているのかをどの程度理解できるか。 ● 読んだ内容の時系列などをどの程度理解できるか。 ● 文章をどの程度なめらかに読めるか。

領域ごとの実態把握の観点(算数)

数と計算	<ul style="list-style-type: none">● 加・減・乗・除法の計算がどの程度できるか。● 小数・分数・整数の関係をどの程度理解しているか。
図形	<ul style="list-style-type: none">● 図形の名称の理解や作成がどの程度できるか。● 面積や体積の概念や求め方をどの程度理解しているか。
測定	<ul style="list-style-type: none">● 長さ、重さなどの単位をどの程度理解できるか。● 直接比較と間接比較がどの程度できるか。
データの活用	<ul style="list-style-type: none">● 絵や図、記号に置き換えて大小や個数を分類、比較することができるか。● 表やグラフをどの程度読み取ることができるか。
数量の変化	<ul style="list-style-type: none">● 割合を用いた数量の関係をどの程度理解できるか。● 図や式を用いて2つの数量の関係をどの程度理解できるか。

ここでは、**学力面**の把握に焦点を絞ると・・・

チェックリストの作成と活用

学力面 = 学習指導要領の3観点の習熟
 「通常学級」 「**特別支援学校**」

学年や国語部の先生、
 通級指導教室の先生
 とチームで作成！！

国語の読み書きチェックリスト

①入門ステップ表

指導の順番・指導方法	チェック欄(○△×)
1 指示の聞き分け	
2 語い(ものや動き、マッチング)	
3 単音・発語(か・い・わ・て) 単音・発語(め・あし・て・くち)	
4 単語(くつ・いす・かさ・かばん)	
5 手をたたく(くり・かき・もも・りんご)	
6 動き(すわる・あるく・かける・とまる)	
7 ことばのつながぎ(は みがく・て あらう・くるま のる)	
8 文字・線や形をかく	
9 文字の形のちがいをかく	
10 50音のマッチング	

言語発達

算数科 図形領域例

個別に把握
学級でも把握
= 集団へ

かたちの系統性

学年	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	おさえるべき用語
1年	ころがる つめる まる さんかく しかく さんかくてできる形	できるかたちの判断 なかまの判別 ころがしてできる形 たおれたときにできる形 わけた形 くつつけた形 つみきの数の比較	かど たいら 上下 前後 左右
2年	三角形の定義 四角形の定義 直角の定義 頂点 辺の定義 正方形・長方形の定義 正方形・長方形の特徴 直角三角形の定義 直角三角形の特徴 長方形 正方形 直角三角形の作図 面の形 辺の数 頂点の数 切り開いてできる形・面	三角形と四角形の分類 条件下により形を分ける 直角の判別 正方形 長方形の判別 長方形 正方形 直角三角形の判別 作図条件の選定 ならびかえると何になる? ○○形は、いくつある? 展開図は、あと○○が必要?	直線 角 辺 面 直角 頂点 三角形 四角形 正方形 長方形 直角三角形
3年	半径、直径の理解 コンパスでできる形 切り口 二等辺三角形の定義 正三角形の定義 二等辺三角形・正三角形の作図	半径、直径の判別 模様を何回でかける?? ボールの切り口で一番大きいのは? 三角定規を合わせた時にできる形 角の大きさの大小	円 円の中心 直径 半径 球 角の大きさ

生活面や認知面の把握では・・・

(ア) 発達の状態等に関すること

a 身辺自立

食事、排泄、着替え、清潔行動（手洗い、歯磨き等）の日常生活習慣行動について

b 社会生活能力

買い物、乗り物の利用、公共機関の利用などのライフスキルについて

c 社会性

社会的ルールを理解、集団行動などの社会的行動や対人関係などの対人スキルについて

d 学習技能

読字、書字、計算、推論などの力について

e 運動機能

協調運動、運動動作技能、持久力などについて

f 意思の伝達能力と手段

言語の理解と表出の状況及びコミュニケーションの手段などについて

(イ) 本人の障害の状態等に関すること

- a 学習意欲、学習に対する取組の姿勢や学習内容の習得の状況
 - ・学習の態度（着席行動、姿勢保持）が身についているか
 - ・学習や課題に対して主体的に取り組む態度が見られるか
 - ・学習や課題に対する理解力や集中力があるか
 - ・読み・書き・計算などの学習の習得の状況はどうか
- b 自立への意欲
 - ・自分で周囲の状況を把握して、行動しようとしているか
 - ・周囲の状況を判断して、自分自身で安全管理や危険回避ができるか
 - ・自分でできることを他者に依存していないか
 - ・周囲の支援を活用して、自分のやりたいことを実現しようとしているか

c 対人関係

- ・実用的なコミュニケーションが可能であるか
- ・協調性があり、友達と仲良くできるか
- ・集団に積極的に参加することができるか
- ・集団生活の中で、一定の役割を果たすことができるか
- ・自分の意思を十分表現することができるか

d 身体の動き

- ・粗大運動が円滑にできているか
- ・微細運動が円滑にできているか
- ・目と手の協応動作が円滑にできているか

e 自己理解

- ・学习上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲をもっているか
- ・自分にできないこと・できることについての認識をもっているか
- ・自分のできなことにに関して、教師や友達の支援を適切に求めることができるか

認知面の把握では、個別の知能検査も活用しましょう。

授業づくりのポイント

まずは、目標の設定

特別支援学校学習指導要領 小学部【国語科】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解・表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。

(2) 日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。

(3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。

領域	1段階	2段階	3段階
	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。 イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いを持つことができるようにする。 ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	ア 日常生活に必要な身近な言葉お身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにすること。 イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。 ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りと聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。 イ 出来事の順序を思い出す力や感じた理想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思いついたり考えたりすることができるようにする。 ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。
	【知識及び技能】		
	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	(ア) 身近な人の話かけになれ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。 (イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	(ア) 身近な人の話掛けや会話などの話言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。 (イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気づくこと。 (イ) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。
		(ウ) 身近な人と会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。 (エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (オ) 文の中における主語と述語との関係や女子の使い方により、意味が変わることを知ること。 (カ) 正しい姿勢で音読すること。
	イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。 (イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。 (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記用具に触れ、書くことを知ること。	(ア) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを真似したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 遊びややりとりを通して、言葉による表現に親しむこと。 (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記用具を用いて、書くことに親しむこと。	イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。 (イ) 図書を用いた調べ方を理解し使うこと。 ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。

絵本や易しい読み物、わらべ歌、テレビやコンピュータの画面に出てくる促音、長音等の含まれた語句や短い文、平仮名、片仮名、簡単な漢字などを取り扱うことを示している。

授業づくりのポイント

～つながる・かかわる～基本姿勢

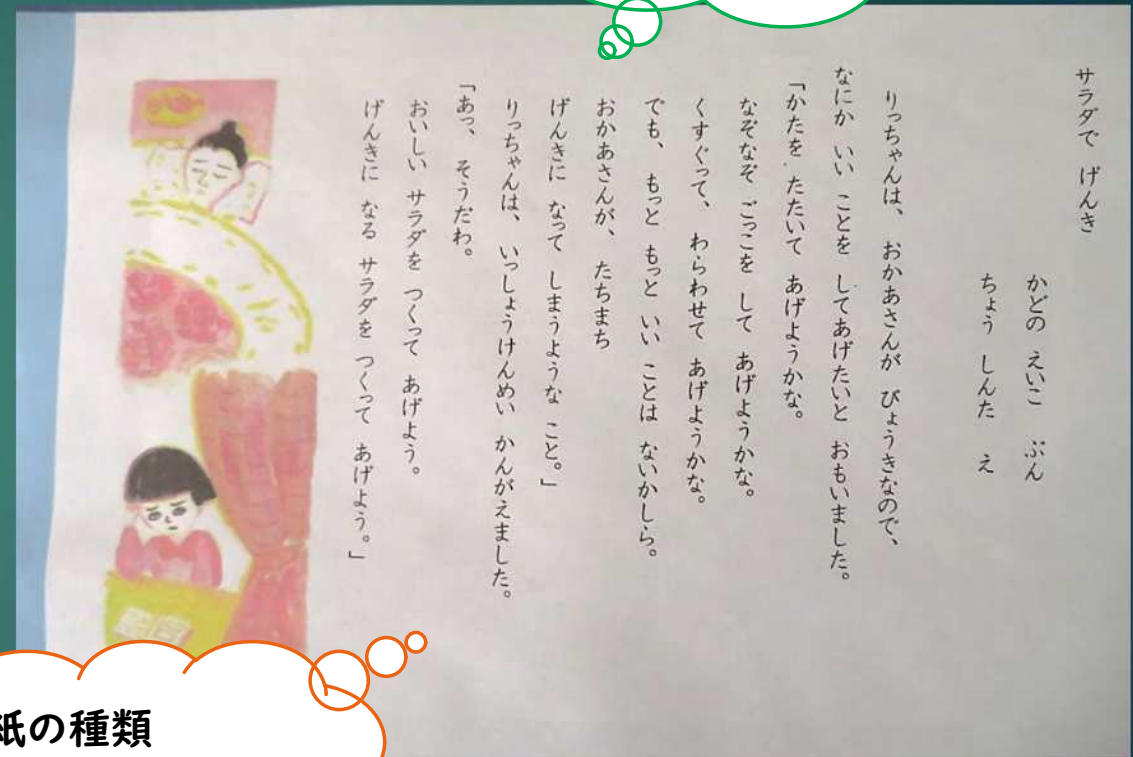
- 児童生徒が興味をもつ題材の設定
(生活から課題設定、学習、活用)
- 個々の読み書き計算に合わせた授業展開の工夫
(構造化とルーティン化)
- 授業UDを取り入れた取組
課題の解決に向けて友達と協働的に学ぶことのできる授業
(スパイラル化)

授業づくりのポイントの具体化

①題材の設定

日常生活へ活かせる
興味、関心がある
身に付けさせたい力
(金銭感覚、ルールなど)

野菜の名前、
調理方法など



手紙の種類
書き方
出し方
買い方

「すけっと (Sukett)」 オンラインセミナー
配布資料3 国立特別支援教育研究所

授業づくりのポイントの具体化

②視覚化と構造化

・板書 ・時間 ・ICT



「すけっと (Sukett)」 オンラインセミナー
配布資料3 国立特別支援教育研究所

授業づくりのポイントの具体化

③ルーティン化 ・展開

国語 学習のすすめかた

- 1 音読をする
- 2 漢字の読み書きをする
- 3 今日の課題を確認する
- 4 自力で読む
(教科書・タブレット)
- 5 先生や友達と話し合う
- 6 まとめる
- 7 早めに終わったら・・・
読書や漢字練習

算数 学習のすすめかた

- 1 計算練習 5分間
- 2 今日の課題の確認
- 3 自力でやってみる
- 4 先生や友達と話し合う
- 5 まとめる
- 6 練習問題をする
- 7 早めに終わったら・・・
計算カードをする
(九九、たし算、ひき算)

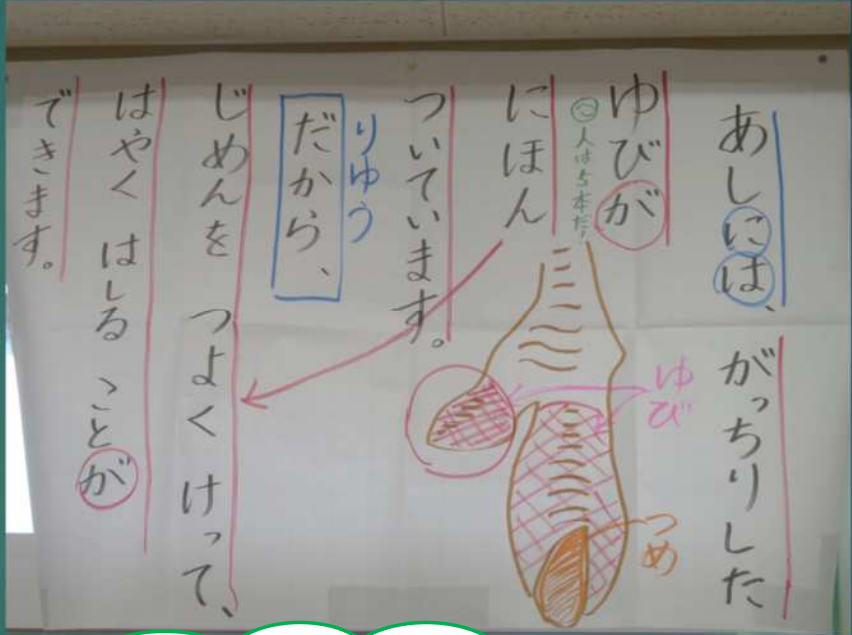
出張等で学級を離れる時
も安心して取り組めるように

「すけっと (Sukett)」 オンラインセミナー
配布資料3 国立特別支援教育研究所

授業づくりのポイントの具体化

「すけっと (Sukett)」 オンラインセミナー
配布資料3 国立特別支援教育研究所

④スパイラル化



学期に1回ずつ、説明的文章を扱う。など
(例) 動物教材で共通

授業づくりのポイントのまとめ

- ①授業づくりは実態把握から
- ②教科の目標・特性を段階的に
- ③支援と評価を3段階
- ④教師は子供に委ねる（選択、見守る）姿勢

3. 自閉症・情緒障害特別支援学級

自閉症とは？

自閉症とは、①他者との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする発達の障害である。その特徴は、3歳くらいまでに現れることが多いが、成人期に症状が顕在化することもある。中枢神経系に何らかの機能不全があると推定されている。

情緒障害とは？

情緒障害とは、周囲の環境から受けるストレスによって生じたストレス反応として状況に合わない心身の状態が持続し、それらを自分の意思ではコントロールできないことが継続している状態をいう。

自閉症とは？

その他の特徴として、感覚の過敏性や鈍感性、刺激の過剰選択性（特定部分に注意が集まってしまい、他の刺激に対して注意が向きにくいという特性「シングルフォーカス」と呼ばれることもある。）が見られることもある。

また、情報を整理・統合して全体的な文脈に沿って処理することの困難さ（中枢性統合の弱さ）も見られることもある。

自閉症の子供たちは・・・

- 対人関係の形成が難しかったり、言語発達に遅れがあったり、興味や関心が狭かったり、手順、方法に独特のこだわりが見られたりします。

詳細は
「障害のある子供の教育支援の手引」
第3編 VII 自閉症
(文部科学省)

「きちんと」「もう少し」と言われるけど、どのくらいやれば「きちんと」したことになるのかなあ。
思っていることをそのまま口にしたら、叱られてしまった。間違っ
たことを言っていないのに、どうしてなのかなあ。
他の人が気にしないような音をうるさく感じたり、光をまぶしく感
じたりして、みんなとは感じ方が違うことがあるみたい。



※自閉症の子供の中には、知的障害がある子供とない子供がいます。知的障害がない場合や軽度の場合には、例えば、漢字や計算などの学習面は障害のない子供と同じくらいできるのに、他の人の立場に立って考えたり、相手の気持ちを想像したりすることが、難しい場合があります。

※自閉症、学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD) など、脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢から現れているものを発達障害といます。

自閉症のある子どもの学習上の特性

- *興味・関心に偏りがある。興味があるのものには過度の集中がある。
 - 興味・関心に応じた教材を取り入れる。
 - 集中が続かない場合は、こまめに別の課題を設定する。
- *感覚の過敏等により、集中できないことがある。
 - パーテーションで区切ったり耳栓を使用したりするなど刺激を減らす。
- *こだわりやルーティンを好むことから学習が滞ることがある。
 - スケジュールを提示し、見通しをもたせる。
- *手先が不器用なことがあり、作業等に時間がかかることがある。
 - 活動時間を確保するとともに、子供に合った学習量に調整したり、便利な用具を使用したりする。

発達障害のある児童生徒の学習上の困難さについて①

発達障害のある児童生徒については、

- 「読む」「書く」「聞く」「計算する」などの学習に必要な能力の習得が困難
- 同世代の児童生徒に比べて著しく注意力がない
- 同世代の児童生徒に比べて著しく多動性・衝動性がある

など、一人一人について障害の状態が異なり、教科学習等に大きな困難を抱えている。

【読むことが困難な例】

知的や視覚・聴覚に問題はないが、文字が右のように見えるケースがある。

その他、

- 長い文章を正確に早く読むことが困難
- 音読が遅い
- 逆さ読みをする
「36」→「63」など
- 字の形を混同する
「はし」→「ほし」など

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな字はいまありませんでしたか。黒線をノートに写し取るのに時間がかかる子。ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまみつきでしか読めない子。きつといたことを覚えています。彼らは、そろそろくれているのでしようか。それとも、がんばっていたのだけれど、もうなっていたのだでしょうか。

文字がにじんで見えたり、

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな字はいまありませんでしたか。文字は、まっすぐな線に沿って書かれています。でも、文字がゆらゆらと揺れているように見えたり、文字がゆらいで見えたり、

文字がゆらいで見えたり、

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな字はいまありませんでしたか。黒線をノートに写し取るのに時間がかかる子。ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまみつきでしか読めない子。きつといたことを覚えています。彼らは、そろそろくれているのでしようか。それとも、がんばっていたのだけれど、もうなっていたのだでしょうか。

鏡文字となって見えていたり、

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな字はいまありませんでしたか。黒線をノートに写し取るのに時間がかかる子。ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまみつきでしか読めない子。きつといたことを覚えています。彼らは、そろそろくれているのでしようか。それとも、がんばっていたのだけれど、もうなっていたのだでしょうか。

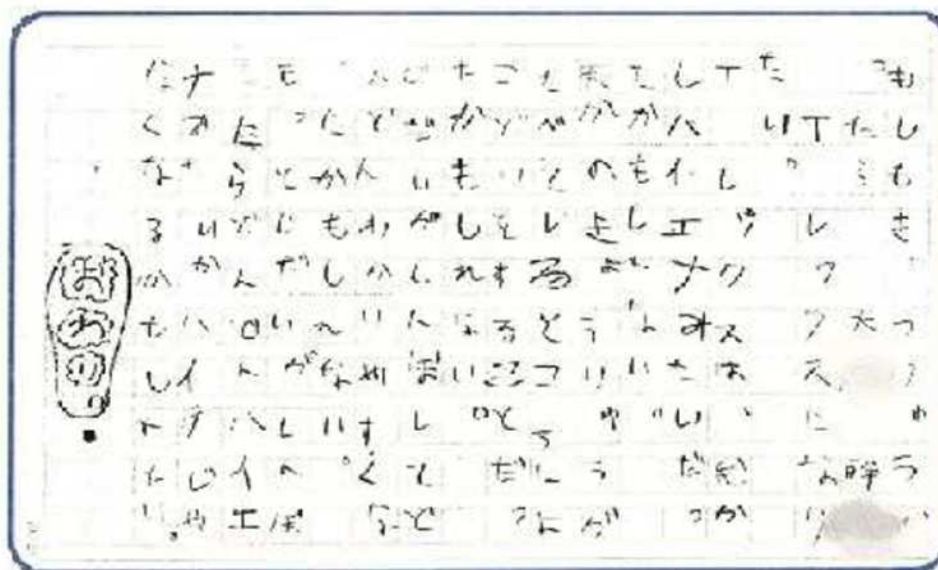
かすんで見えていたりします。

発達障害のある児童生徒の学習上の困難さについて②

【書くことが困難な例】

- 字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書くことができない
- 意味の似た漢字を間違える（「作る」→「使う」など）
- 鏡文字を書く

※読み書きの苦手な中学校
1年生の生徒の作文



【聞くことが困難な例】

- 似た音を聞き誤る（「行った」→「知った」、「橋」→「足」など）
- 集団における指示が聞き取れない、理解できない

【その他】

- 視覚的短期記憶が悪い（見てもすぐに忘れる→板書が苦手）
- 聴覚的短期記憶が悪い（聞いてもすぐ忘れる→言われたことができない） 等

教育内容・方法

学習内容の習得の困難さを補完するための配慮をする
(動作等を利用して意味を理解する、繰り返し練習して道具の使い方を正確に覚える等)

数量や言葉等の理解が部分的であったり、偏っていたりする場合の学習内容の変更・調整を行う(理解の程度を考慮した基礎的・基本的な内容の確実な習得、社会適応に必要な技術や態度を身に付けること等)

視覚情報を活用できるようにする(写真や図面、模型、実物等の活用)また、細かな制作等に不器用さが目立つ場合が多いことから、扱いやすい道具を用意したり、補助具を効果的に利用したりする

教育内容・方法

言葉による指示だけでは行動することが難しい場合が多いことから、学習活動の順序を分かりやすくするために活動予定表等の活用を行う

実際に体験しなければ、行動等の意味を理解することが困難であることから、実際的な体験の機会を多くする

二次的な障害として、情緒障害と同様に情緒不安定や不登校、ひきこもり、自尊心や自己肯定感の低下等の状態が起きやすいことから、それらの予防に努める

(ア) 発達の状態等に関すること

- a 生活リズムの形成
 - ・睡眠や覚醒、活動・休息、食事、排泄等のリズム
- b 基本的生活習慣の形成
 - ・食事、排泄、衣服の着脱等の基本的生活習慣の自立の程度
- c 活動に対する状況
 - ・ルールのある遊びや活動の理解及び参加の状況
- d 意思の伝達能力と手段
 - ・言語の理解と表出の状況及びコミュニケーション手段
- e 知能の発達
 - ・知能に関する認知や概念の形成
- f 情緒の安定
 - ・環境の変化等による緊張の状態や情緒の変化

(イ) 本人の障害の状態等に関すること

a 感覚や認知の特性

- ・感覚の過敏性や鈍感性
- ・感覚の発達の違い
- ・視覚認知の優位

b 障害による学習上又は生活上の困難を改善するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力

- ・情緒が安定するように自分自身で環境を調整しようとするか
- ・活動を分かりやすくするために、場所や道具、手順の整理を行おうとするか
- ・困ったときに教師や友達に自分から支援を求めることができるか
- ・気持ちが不安定になったときに、気持ちを切り替えるための有効な手段を身に付けているか

c 社会性及び集団への参加の状態

- ・自由な交流場面において、相手の言葉を字義通りに受け取ってしまうか
- ・会話の状況から相手の真意を読み取ることができるか
- ・相手の表情や言葉の調子などから相手の感情を理解することができるか
- ・こだわりがあるか
- ・順番を待つことができるか
- ・ジャンケンや綱引きなど勝ち負けの簡単なルールが理解できているか
- ・鬼ごっこやかくれんぼなどで役割の違いなどを理解して活動できているか

d 学習の状況

- ・学習の態度（着席行動、傾聴態度）が身に付いているか
- ・学習や課題に対する理解力や集中力があるか
- ・年齢相応の態度や姿勢で学習活動に参加することができるか
- ・読み・書き（板書・視写・模写）などの技能や速度はどうか
- ・道具を使用する活動に苦手意識はないか

e 自己理解の状況

- ・自分の得意なことや苦手なことについて認識をもっているか
- ・自分のできないことに関して悩みをもっているか
- ・保護者や教師と自分の特性や困難さについて話し合ったり、相談したりして理解しようとしているか
- ・特性による困難さを正しく理解し、改善・克服しようとする意欲をもっているか

自閉症のある子供に対する支援としての構造化

自閉症のある子供には、活動などを分かりやすくするための構造化が有効である。構造化をすることで、概念化や情報を整理・統合することに困難さがある自閉症のある子供が、課題などのやるべきことや課題をどのように遂行すべきかを理解しやすくなる。また、構造化によって、予測性のある活動の手順を示すことにより、見通しがもてないことで生じる不安を軽減することができる。そのため、自閉症のある子供がストレスを感じにくくなり、学ぶべき事柄に集中することができる。構造化には決まった形がなく、子供一人一人に合わせて分かりやすくすることが求められる。

また、構造化は子供一人一人の実態に応じて調整するものであり、定期的に見直しを図っていくことが重要である。子供の状態によっては、構造化を一層行うことが必要な場合もあれば、構造化を取り外していく場合もある。

自閉症のある子供に対する支援としての構造化

構造化 を行う

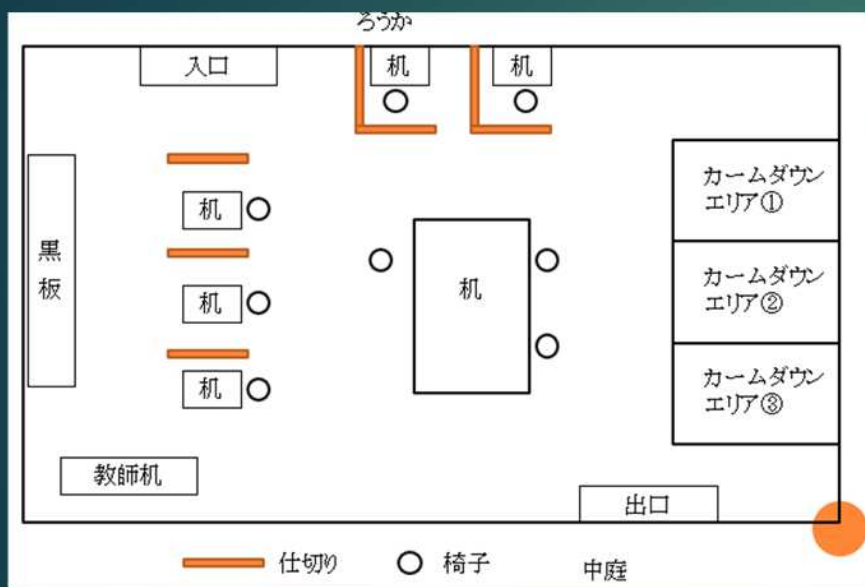
構造化…活動などを分かりやすくするため

構造化は、一人一人の実態に応じて調整を行う

- ① 物理的な構造化
- ② 時間の構造化
- ③ 活動の構造化
- ④ 一連の流れの構造化
- ⑤ 課題の構造化

① 物理的な構造化

物理的に分かりやすい境界
を設ける



棚等の配置により、物理的に分かりやすい境界を設ける。例えば、教室内でも、着替えを行う場所、学習をする場所を分けることで、どの場所で何を行うのかを分かりやすくする。

② 時間の構造化

10月21日(水)2時間目のスケジュール「算数」		
	9:20~10:05	
1のはこ	自分でべんきょう	9:20から
	先生とべんきょう	9:30から
	きゅうけい	
2のはこ	自分でべんきょう	9:50から
	ふりかえり	10:00から

スケジュールを視覚的に示すことで、どのような活動が、どのような順番で続いていくのかをあらかじめ理解できるようにする。子供一人一人の理解力により、文字で示すだけでなく、写真や絵を用いたカードを活用することも考えられる。

② 時間の構造化



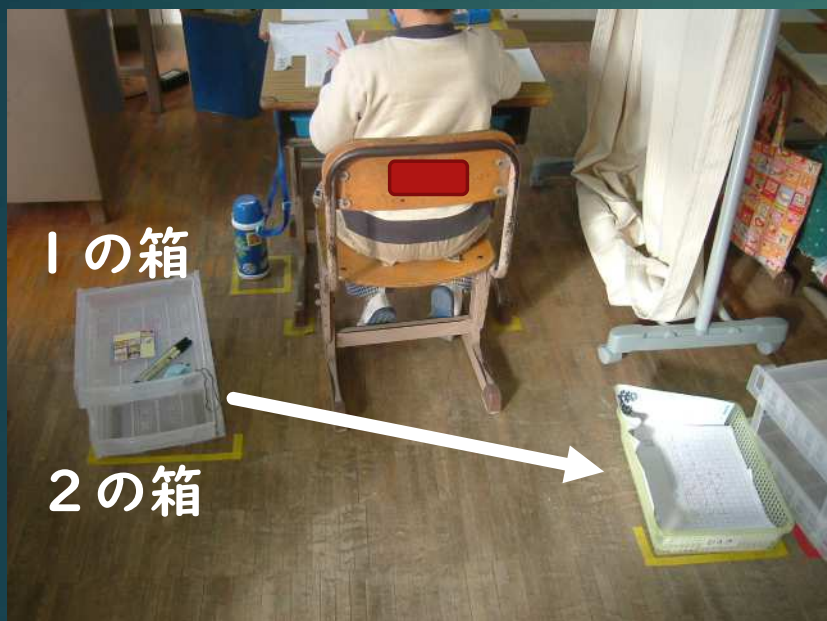
一日のスケジュールを提示
(参考)
左側は、コミュニケーションボード



1 単位時間のスケジュールを提示
(参考) 物を置く場所を示す
自立活動で学習したことや
1 週間の目標を提示

③ 活動の構造化

活動の流れを分かりやすくすることで、
学習に集中しやすくする



例えば、机の左側に重ねてある課題を上から一つとって取り組み、終わったら机の右側においてある箱にしまうようにする。左側に積んである課題がすべて終了したら終わりということ、視覚的に理解しやすくすることで、子供が見通しをもって課題に取り組むことができる。

④ 一連の流れの構造化

手順のある事柄について、決まった手順で行えるようにする



例えば、歯磨きなら、左上、右上、左下、右下の順で磨くなどするようにする。他にも、登校後、連絡帳を教卓の連絡帳入れに入れる。給食袋を机にかけるなども考えられる。一連の流れを同じ手順で習慣化することで、普段の生活を安定して送れるようになる。

⑤ 課題の構造化

学習に取り組む一つ一つの課題について、どのような手順で、どのように行い、どうなると終わるのかをわかりやすくする



例えば、手順を順に示す写真を見ながら行うようにすることで、子供が見通しをもって課題に取り組むことができるようになる。

授業づくりのポイント

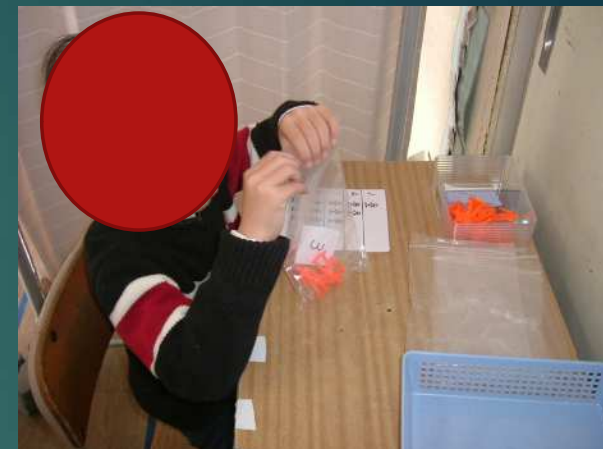
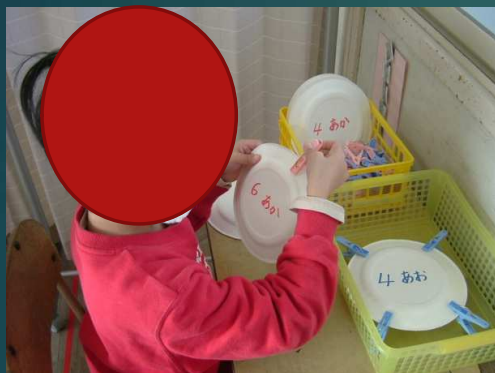
○つまづいた時に何を見たらよいかを事前に準備し、提示しておきます。

例えば、前時の板書の写真、参考となる教科書のページ、タブレット端末など

○主体的に取り組み、自己肯定感が高まるような時間にするためには、質や量を調整し、達成感を得られるようにします。



ICTや市販されている教材（プリント集やドリルなど）も有効に活用しましょう。プリント集やドリルばかりでは、活動が滞ることがありますので、具体物を操作する学習も取り入れていくと有効です。



インクルーシブ教育を推進します

特別支援教育エリアリーダー

地域の小中学校からの相談に対応(専任)

例:「一人一人の障害に応じた授業づくり」
「校内支援体制づくり」など

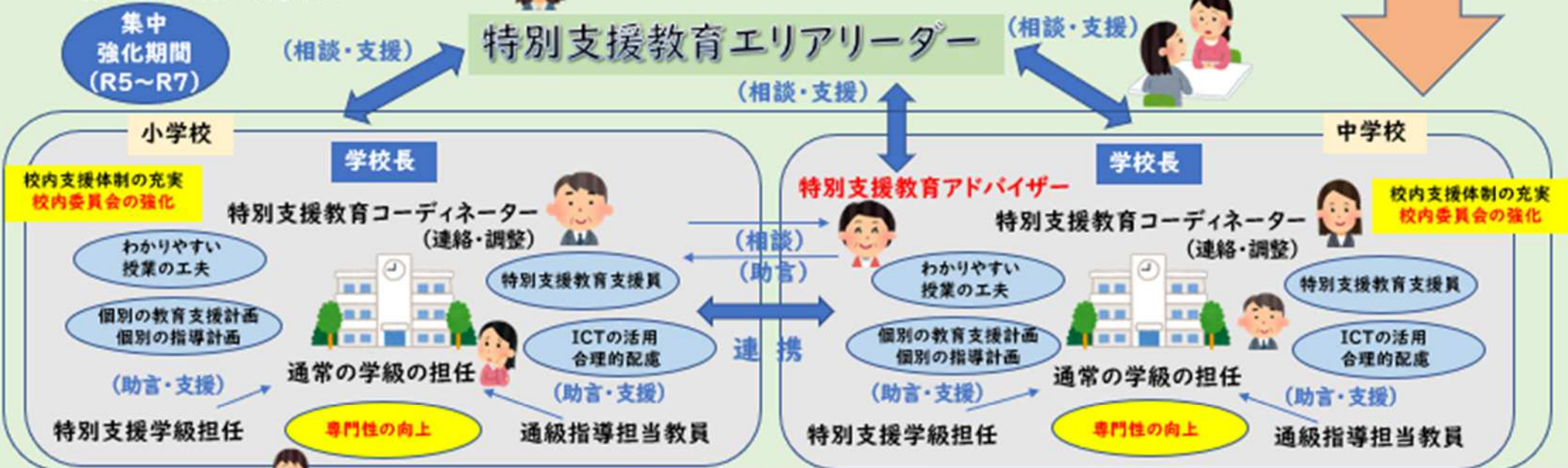
目指す学校像

教員だれもが、特別支援教育の専門性を身に付け児童生徒の支援ができる学校へ



特別支援学校

センター的機能の発揮



特別支援教育エリアリーダー(専任)
西部地区1名配置(小中学校の教員)
教育事務所や市町教育委員会と連携
小中学校の教員による効果的な校内支援体制や指導力向上に向けた相談・支援等の実施

特別支援学校
センター的機能とは
特別支援教育に関する専門的知見や知識を有する特別支援学校から小中学校等への支援の実施

特別支援教育アドバイザー(特別支援教育アドバイザー養成研修受講者)
学校及び近隣の学校等における特別支援教育の推進役

<自己研鑽のための参考資料>

障害のある子供の教育支援の手引き

～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実について～（文部科学省 令和3年6月）

- ・障害のある子供の教育支援の基本的な考え方
- ・就学に関する手続き等
- ・障害の特性に応じた教育的対応

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 (NISE)

- ・特別支援教育の基礎・基本
- ・障害種別の研究
- ・実践事例
- ・特別支援教育教材ポータルサイト 等

また、

- NISE 学びラボ（インターネットによる講座配信）
- 発達障害教育推進センター（発達障害の理解・支援 等）
- インクルDB（「合理的配慮」実践事例データベース）
- 特別支援教育リーフシリーズ（まずはここから① 等）
- すけっと（知的障害特別支援学級担任のための授業づくりサポートキット） など 多数の資料が掲載されています。